

今週のこゝば「**言い伝え**」

《聖書》マルコによる福音書

7:1-8, 14-15, 21-23

掟

掟について説明することは難しいです。これが神の掟ですか、これが教会の掟ですか言うことは簡単です。しかし、その掟がどうして掟として言い伝えられるようになったのかを理解することは、なかなか骨の折れることです。掟として言い伝えられるからには、何か意味があるはずですよ。

イエスの時代のことを考えてみましょう。ユダヤ人にとっての聖書とは、私たちが旧約聖書と呼んでいるものです。その聖書の中でも、モーセ五書と呼ばれる最初の五つの書物、つまり、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記と申命記とをあわせて、律法の書と呼んでいました。聖書に書かれた掟だけでも数え切れないぐらいあるのに、さらに、掟を守るための言い伝えがたくさん作られています。だから、専門家として勉強しないかぎり、細かい点についてはどうしてわかりませんでした。律法学者と呼ばれていた人たちは、それぞれの先生について、今で言うならば、学校のような所で専門的な勉強をしていました。

律法学者にとって、昔の人の言い伝えを守ることは、すなわち律法を守ることでした。しかし、律法学者のように専門

に勉強したことの無い人々にとっては、どうして守ることのできない言い伝えでした。しかし、律法学者は、みんなの人たちに言い伝えを守るように圧力をかけていたのです。

習慣

今の私たちにあって、言い伝えにかわるものとして習慣があります。習慣は、場所や時代によってそれぞれ違うものです。これは習慣だから必ず守らなくてはいけないうのだという考え方は、イエスの時代の律法学者と同じ考えになってしまっています。それでは、イエスが苦勞して活動したことが無意味になってしまいます。教会の中でも、習慣だからということで、やたらにたくさんの言い伝えがあります。しかも、それを守らないと信者ではないと思込んでいる人もたくさんいます。代々、昔の人の言い伝えとして守られてきたことは、日常生活にかかせないものです。だからといって、その言い伝えだけを守っていればよいとは言えません。できれば、その言い伝えが守られてきた意味を理解し、もし、今の時代にあわぬものなら、その習慣を変えていく努力もしなくてはなりません。習慣は、その時代、時代の人たちの努力によって作られてきたものです。

年間第2主日B年 (滝野)